

## アワヨトウの飛来量が多い

～ イネ科牧草やとうもろこし等での発生に注意してください ～

### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

長距離移動性害虫であるアワヨトウの成虫（図-1）の飛来が5月6半旬以降確認されている。糖蜜誘蛾器による誘殺数から飛来量が多いと推定される（表-1）。

この飛来成虫により、イネ科牧草を中心に産卵が行われたものと考えられる。糖蜜誘蛾器の誘殺盛期と有効積算温度から幼虫のふ化は6月3半旬頃から開始し、幼虫（図-2）がほ場等で目立ってくるのは6月20日頃からと推定される。また、6月6半旬頃から老齢幼虫（図-3）が出現すると予想される（図-4）。

アワヨトウは主にイネ科牧草、とうもろこし、小麦等のイネ科作物に被害を及ぼすが、その他にも河川敷、道路の法面、果樹園の下草、雑草地などのイネ科雑草やゴルフ場の芝類でも発生する可能性があり注意が必要である。

### 2. 防除対策

- 1) 防除適期は、6月4～5半旬頃と予想される（図-4）。しかし、場所により飛来盛期や気温等が異なるため、牧草地等では若齢幼虫期（図-4）に見回りを行い早期発見に努める。幼虫は夜行性で日中は地際にいることが多いため、見回りの際は草をかき分けながらよく観察する。
- 2) 幼虫は成育にともなって殺虫剤に対する感受性が低下し、食害量も急増する。そのため、黒色化した幼虫（図-2）がみられる場合は密度が高いと考えられるため、確認後速やかに防除する（表-2）。
- 3) イネ科牧草で収穫間近のものは、早めに刈り取りを行う。
- 4) 水田では、休耕田等からの幼虫の移動・加害に注意する。特に中干し時に水田内に侵入しやすいため、畦畔や農道法面の雑草に発生が見られたら湛水状態を保ち、侵入を防ぐ。

### 3. 資料



図-1 アワヨトウ成虫



図-2 黒色化した幼虫（幼虫は頭部に‘ハ’の字状の斑紋がある）



図-3 老齢幼虫

表-1 アワヨトウ成虫の誘殺状況(5月5半旬～6月2半旬の合計)

地点名	誘殺数(頭)			概評
	本年	平年	前年	
能代市竹生	10	2.6	0	多
由利本荘市東由利原	37	0.2	0	多

注:糖蜜誘蛾器

表-2 アワヨトウに登録のある農薬

作物名	農薬名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数
イネ科牧草	スミチオン乳剤	1,000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内
とうもろこし※	アグロスリン乳剤	1,000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	トレボン乳剤	1,000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	4回以内
小麦	エルサン乳剤	1,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	4回以内
	スミチオン乳剤	1,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	1回

※飼料用とうもろこしは含まない。

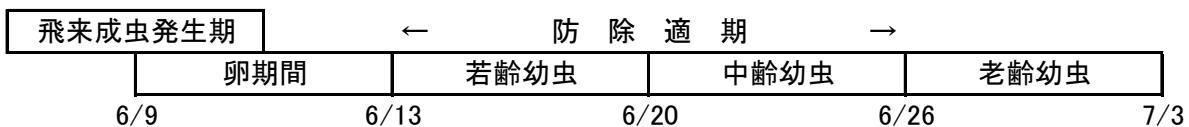


図-4 防除適期の目安

(飛来盛期(6月5日)を起点として、秋田のアメダスデータから算出)

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326  
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>